

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	宮崎県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	宮崎県の文化遺産を活用した地域活性化プラン	【計画の改善時期】 平成31年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 32 年度		
5 実施計画の概要			
<p>1 基本方針と取組状況</p> <p>宮崎県は、文化に関する県政運営の指針となる「みやざき文化振興ビジョン（改訂版）」（平成29年2月策定）において、「文化で築く みやざきの新しいゆたかさの実現」を基本目標に、その基本的な方向性の一つとして、「特色ある文化資源の活用」を掲げている。具体的には、「本県の多様な文化資源の存在や価値について、県民が再認識し、活用につなげられるよう、文化資源の掘り起こしを行うとともに、情報発信の取組を推進」するとともに「県内の歴史や風土、先覚者、文化財など、本県の多様な文化資源を活かした取組を実施し、地域づくりや観光交流の活性化、産業の振興につなげる」としている。</p> <p>本県は古事記や日本書紀に描かれた日本発祥にまつわる日向神話の舞台であり、多くの神話や伝承、それらにちなんだ伝統文化やゆかりの地などが県内各地に残されているが、県では、古事記編さん1300年の2012（平成24）年から日本書紀編さん1300年の2020（平成32）年までの9年間をかけて、これらの県内各地に残る貴重な資源の磨き上げや情報発信を行いながら、県民自身がこの貴重な“財産”“宝”を再認識し、郷土に対する愛着や誇りを深めるとともに、これらをしっかりと次の世代に伝えていく。さらに、このような取組を通して地区住民の連帯感を深め、地域の活性化につなげていくこと等を目的とした「記紀編さん記念事業」に取り組んでいる。</p> <p>なかでも神楽は、自然と共生し神事を重んじてきた本県の人々にとって、五穀豊穡や豊漁の祈願の舞として山里の集落を中心に長く受け継がれてきた代表的な伝統芸能であり、現在も200を超える保存団体で継承されているものであるが、県では、本県の宝である神楽を切り口とした地域づくりに向けて、これらの保存団体と連携し、神楽の調査・研究、保存・継承に取り組むとともに、九州各県とのネットワーク作りにも努めながら、県内外での神楽公演やシンポジウムの開催など、知る機会、触れる機会の創出に努め、神楽の普及や情報発信等様々な事業に取り組んでいるところである。</p> <p>また、建造物を活用した取り組みとして「ヘリテージマネージャー養成講座」を実施し、地域の文化資源として古民家の保存・再生を行うなど古民家の活用を行っている。</p> <p>このことにより、県内各地で登録有形文化財（建造物）に対する理解が進んでいる。このように、ヘリテージマネージャーを活用して、地域全体で建造物の文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立を目指す。</p> <p>2 本事業の実施方針～持続可能な地域文化の育成にむけて～</p> <p>上記のような県の取組方針のもと、神楽保存・継承実行委員会では、持続可能な地域文化育成に資するため、貴庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」を通じて、①その起こりや歴史、根源的価値や魅力など神楽の基礎となる情報を発信し、県民から本県神楽に対する一層の理解、共感、支持を得ること。②本県神楽が他地域の神楽と連携し振興を図ることで広域圏ネットワークを構築し、連携・協力して保全、活用、継承活動を実施できること。の2点を主眼に、県民の学びの場の創出と九州のネットワークづくりに取り組んできた。</p> <p>今後は、記紀編さん記念事業の最終年であり、また、東京オリンピック・パラリンピック、さらには国民文化祭が宮崎で開催される2020年に向けて記紀編さん記念事業に取り組む県の文化施策と密接に連携を図りながら、これまでに蓄積した成果を継承活用するとともにさらに取組を前に進め、県の主要な地域伝統芸能である神楽の保存継承とそれを活用した地域の活性化につなげていく。</p> <p>特にこの4年間は、従来の取組に加え、県民が全国の伝統芸能に触れ、県内外の先進的な取組からより具体的な課題や取組方策等について学ぶ機会を創出しながら、神楽の保存・継承や神楽を生かした地域活性化の取組を加速させるものとし、これらの取組により、県の他の文化施策の取組ともあいまって、本県の神話や伝承、神楽、史跡など歴史的文化的資源全般への関心度を、平成27年度（28年2月調査）の65.7%から平成32年度には80%に引き上げるとともに、県内神楽保存団体数の維持及び本県への観光入込客数のうち、旅の目的が「神話・伝説を訪ねる旅」である県外客の割合を増加を目標として取り組むものとする。</p> <p>また、一般社団法人宮崎県建築士会は平成26年度～平成28年度にかけて、貴庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」を通じてヘリテージマネージャー養成講座を実施し、83名のヘリテージマネージャーが養成された。このヘリテージマネージャーが各地域の核となり、地域の文化財（建造物）を掘り起こし、保存活用へ導いていけるよう取組を行うものである。</p>			

6 実施体制			
<p>本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等は以下の担当課が行う。 総合政策部 国民文化祭・障害者芸術文化祭課 記紀編さん記念事業推進室 教育庁文化財課</p> <p>また、補助事業は以下の実行委員会が実施する。 平成31年度～ 宮崎県文化遺産活性化委員会（委員長：大館真晴） ※各補助事業実行団体 平成29年度～ 神楽保存・継承実行委員会（委員長：小川直之） 平成30年度～ 一般社団法人 宮崎県建築士会（会長：松竹昭彦）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 42,032 千円	平成31年度申請額： 11,844 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>県民が県内外の多様な神楽に直接触れ合う機会を創出することにより、保存会等の神楽関係者にとっては、地域外で神楽を舞い、また、他の神楽を鑑賞し、他団体の状況等を学ぶこととなり、自らの神楽、地域への誇りや愛着が深まり、ひいては後継者の確保や地域の活力へとつながることが期待できる。</p> <p>また、九州各県とのネットワークを構築し、関係者が神楽の保存・継承に関する取組事例などの様々な情報の共有化を図ることにより、それぞれの保存継承活動に大きな力を与えるとともに、本県はもとより九州全体の神楽の保存継承の機運づくりにも寄与する。</p> <p>さらに、主に中山間地域で行われる現地での神楽奉納に初心者でも参加しやすくなるよう、神楽の魅力と現地で神楽を見るために必要な情報を日本語・英語それぞれで発信することにより、神楽を通じた賑わいの創出と交流人口の増加につなげることができ、もって地域活性化につなげていくことができる。</p> <p>他方、県民の地域の文化遺産に対する関心や意識が向上し、今後、県民の力による地域の文化遺産の保存と、次世代への確実な継承とともに、地域の活性化が期待できる。また、行政と民間団体、文化財保護団体による連携・協力体制が構築され、身近な歴史的建造物の保護・再生・活用への活動が期待できる。国登録有形文化財等は、交流人口の増加、観光客誘致にも寄与しており、今後も認知度の向上によって、一層の増加に期待が持てる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	九州内の国の重要無形民俗文化財に指定されている神楽団体が会員である「九州の神楽ネットワーク協議会」（事務局：宮崎県教育庁文化財課、H28.11月発足）と連携し、九州の神楽の保存・継承及び情報発信と、神楽を切り口とした地域づくりを推進するための取組を行う。		
事業概要：			
事業概要：			
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>宮崎県では、文化庁の認定を受けた「歴史文化基本構想」はないが、文化財だけでなく文化全般にわたる施策の方向性を示す「みやざき文化振興ビジョン（改訂版）」（対象期間：平成29年度～平成33年度）を策定している。</p> <p>また、「文化財保存活用大綱」については、策定に向けて今後検討していく予定である。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	宮崎県教育庁文化財課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域に誇りを感じる住民の割合					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	本県の神話や伝承、神楽、史跡など歴史的文化的資源への関心度			関連事業:	事業①②④	
目標値 1 :	【現状値】 平成 27 年度 65 % ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 80 %					
設定根拠 1 :	宮崎県民意識調査数値に基づいて設定する。					
進捗状況 1 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
62 %	65 %	%	%	%	%	%
-20%	0%					
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 2 :	宮崎県内神楽保存団体の数			関連事業:	事業①②	
目標値 2 :	【現状値】 平成 27 年度 207 団体 ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 207 団体					
設定根拠 2 :	宮崎県教育庁文化財課による「神楽調査一覧表」の集計結果に基づいて設定する。					
進捗状況 2 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
207 団体	207 団体	207 団体	団体	団体	団体	団体
100%	100%	100%				
目標区分 3 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 3 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 3 :	県観光入込客のうち、旅の目的が「神話・伝説を訪ねる旅」である県外客の割合			関連事業:	事業③	
目標値 3 :	【現状値】 平成 29 年度 12 % ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 20 %					
設定根拠 3 :	宮崎県観光入込客統計調査結果 (宮崎県商工観光労働部観光・経済交流局観光推進課)					
進捗状況 3 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
%	12 %	%	%	%	%	%
	0%					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	地域文化遺産（神楽）普及啓発事業	実施団体：	神楽保存・継承実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度～平成 32 年度			
事業概要：	伝統芸能等の保存継承に先進的な取組を行う団体やユネスコ無形文化遺産に登録されている神楽団体、さらには県内外の神楽保存団体等を招聘し、様々な要素にスポットを当てたシンポジウムや講演会、神楽の上演を行う。なお、最終年度には「全国神楽の祭典（仮称）」の開催することにより、神楽の普及啓発に繋げる。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	本県の神話や伝承、神楽、史跡など歴史的文化的資源への関心度					
目標値：	【現状値】平成 27 年度 65 % ⇒ 【目標値】平成 32 年度 80 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
62 %	65 %	%	%	%	%	
-20%	0%					
事業②：	地域文化遺産（神楽）人材育成事業	実施団体：	神楽保存・継承実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度～平成 32 年度			
事業概要：	小・中学生を対象とした「神楽」のワークショップを実施することで、子ども達が本物の神楽を鑑賞・体験する機会を創出することにより、神楽や地域への誇り、愛着を深める機会とする。なお、最終年度には、上記「全国神楽の祭典（仮称）」と併せて「こども神楽大会（仮称）」の実施を目指す。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	宮崎県内神楽保存団体の数					
目標値：	【現状値】平成 27 年度 207 団体 ⇒ 【目標値】平成 32 年度 207 団体					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
207 団体	207 団体	207 団体	団体	団体	団体	
100%	100%	100%				
事業③：	地域文化遺産（神楽）情報発信事業	実施団体：	神楽保存・継承実行委員会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度～平成 32 年度			
事業概要：	神楽は、本県における大切な地域の宝であり、重要な観光資源や地域活性化に繋がる活力でもあるが、神楽の奉納は中山間地域で行われるものが多く、観光客が訪れる場合に周辺環境が分からない等、誘客へのハードルが高いことから、初めて神楽に参加する場合に携行できるパンフレットを作成する。なお、パンフレットは、近年、宮崎県が主催する県外神楽公演や、実際の神楽奉納に訪日外国人が神楽に参加する例も増えていることから、日本語版と英語版を作成し、インバウンド需要にも対応する。					
評価指標区分：	・コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	神話のふるさとホームページに掲載した当該パンフレットデータへのアクセス数					
目標値：	【現状値】平成 30 年度 424 件 ⇒ 【目標値】平成 32 年度 2,000 件					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
件	件	424 件	件	件	件	
		0%				

事業④：	宮崎県ヘリテージマネージャー普及啓発支援事業	実施団体：	一般社団法人 宮崎県建築士会		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度		
事業概要：	県内で活動するヘリテージマネージャーの取組を広く県民に認知し、地域での活動をより活性化するため、講習会を年数回実施する。毎回、県内各地域のヘリテージマネージャーによる取組の発表と、各テーマに精通した講師による講演を組み合わせで行う。県や市町村の文化財担当者、歴史的建造物の所有者、一般市民の参加も予定しており、今後の活動の連携へと繋げる。				
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	ヘリテージマネージャーが国登録有形文化財の申請について対象となる建造物所有者に勧め、申請する件数				
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 2 件 ⇒ 【目標値】 平成 32 年度 10 件				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
件	2 件	0 件	件	件	件
	0%	-25%			